

# 報 告



## [報告]

# 若年層に対する献血啓発セミナーの有用性

宮城県赤十字血液センター

中川國利, 猪野 健, 青木利昭, 高橋勝彦, 渡邊明博, 大友友次郎, 鈴木一江, 相原史子, 鈴木春貴

## Usefulness of promotional lecture on blood donation for the young group

*Miyagi Red Cross Blood Center*

Kunitoshi Nakagawa, Takeshi Ino, Toshiaki Aoki, Katsuhiko Takahashi,  
Akihiro Watanabe, Tomojiro Otomo, Kazue Suzuki, Fumiko Aihara and Haruki Suzuki

### 抄 錄

少子高齢社会の急激なる進展に伴い、若年層を中心に献血者の減少が著しい。そこで将来にわたり安定的に献血者を確保するため、小中高大学校で献血啓発セミナーを行い、その有用性について検討した。学校に直接出かけ、「血液の働き」や「献血から輸血までの流れ」を紹介した。また学生の年齢や関心事項を考慮し、「将来の夢」「健康講話」「模擬外科手術」なども交えて講演し、終了後に小学生378名、中学生529名、高校生625名、大学生362名の計1,894名に無記名のアンケート調査を行った。アンケート調査では、全受講生の85.2%が分かりやすいセミナーと答え、89.3%が献血に関心を示し、また83.9%が献血に協力したいと答え、献血に対する理解が深まった。将来を担う小中高大学生に対する献血啓発セミナーは有用であり、血液の安定供給を責務とする血液センターとしては、献血啓発セミナーに積極的に取り組む必要がある。

Key words: promotional lecture on blood donation, blood donation,  
young group

### はじめに

少子高齢社会の急激なる進展に伴い、若年層を中心に献血者の減少が著しい。そのため将来にわたり献血者を安定的に確保する対策として、若年層に対する献血の啓発活動が重要視されている<sup>1), 2)</sup>。

そこで宮城県赤十字血液センターでは、小中高大学校での献血啓発セミナーに積極的に取り組んでおり、セミナーの有用性について報告する。

### 方 法

地方自治体開催の献血推進協議会などの各種会合において、小中高大学校での献血啓発セミナー開催を依頼した。そしてセミナー開催を希望する学校に直接出かけ、学生の年齢や関心事項を考慮しながら、「血液の働き」や「献血から輸血までの血液製剤の流れ」を説明した<sup>3)</sup>。また輸血の具体例として、DVD『アンパンマンのエキス』を上映した。さらに学校側の要望に応じて、「将来の夢」「健康講話」「模擬外科手術」など、学生の興味を

引く事項を加え、1時間程度にまとめて講演した(図1)。なお平成26年度から平成29年度に献血セミナーを行った小学校4校(378名)、中学校3校(529名)、高等学校4校(625名)、大学2校(2年連続で計362名)においては、セミナー後に「献血セミナーの理解」「献血への関心」「献血への協力」についてのアンケート調査を無記名で行った。なお大学においては、医学部1年生(194名)と教育学部3年生(168名)との意識差についても検討した。



図1 献血セミナーにおける模擬手術

## 結 果

### 1. 献血セミナーの理解

「良く分かる」と「分かりやすい」を合わせると、小学生90.7%、中学生82.5%、高校生76.6%であった(図2)。また大学生では、医学生97.5%、教育学部生87.5%と、医学生の理解が顕著であった。

### 2. 献血への関心

「以前より関心を持つ」と「関心を持つようになった」を合わせると、小学生93.8%、中学生85.8%、高校生87.2%であった(図3)。また大学生では、医学生94.4%、教育学部生87.5%と、医学生が高率で関心を示した。

### 3. 献血への協力

「強く思う」と「思う」を合わせると、小学生91.2%、中学生80.0%、高校生78.5%であった(図4)。また大学生では、医学生92.9%、教育学部生81.9%と、医学生の意欲が旺盛であった。なお医学生においては、194名中52名が献血歴を有していた。またセミナー後に行った献血ルームでの体験学習では、B肝炎ワクチン接種直後や期間不足などで献血できない学生も存在したが、111名が献血受付し、うち血色素不足や低体重などを除く83名

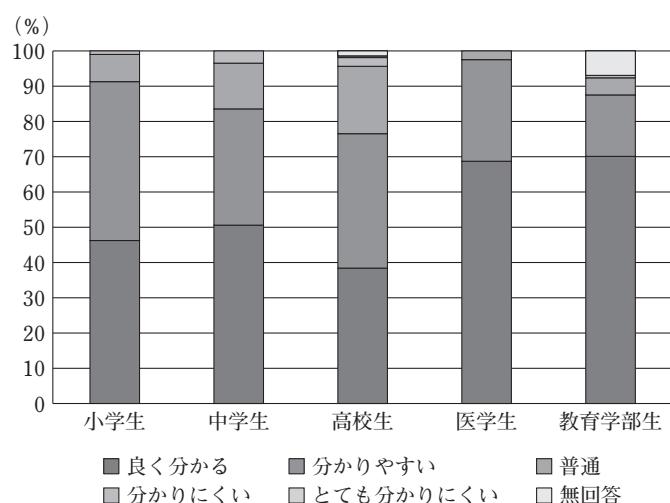


図2 献血セミナーの理解

が献血に協力した。

#### 4. セミナーに対する感想

ほぼすべての受講者から感想文が提出され、献血に対する関心を持ち、献血に協力したいとの意見を寄せる感想が大多数を占めた。また小中高校生では医療職に興味を抱く意見や、医学生では将

来の医師としての役割を自覚する内容も記載されていた。

具体的には、小学3年生「たくさん的人が血がなくて苦しんでいるのを知り、私も早く16才になつてけん血に協力したいと思います」。小学6年生「私の夢はお医者さんになって、人を助けることです。手術を見て、やる気がさらに増しました」。

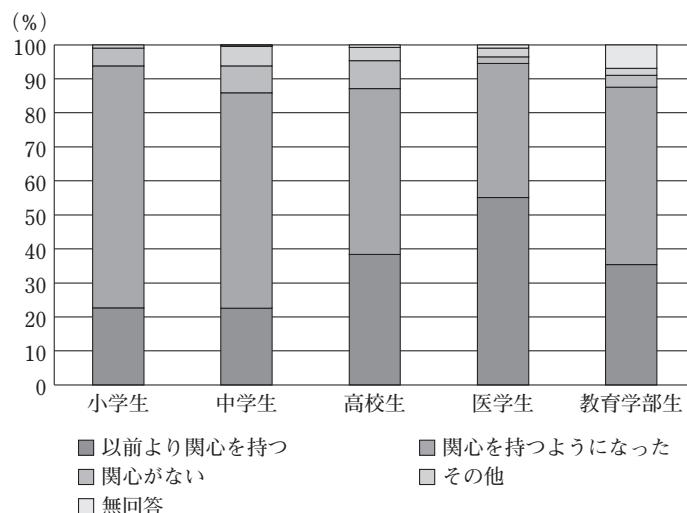


図3 献血への関心

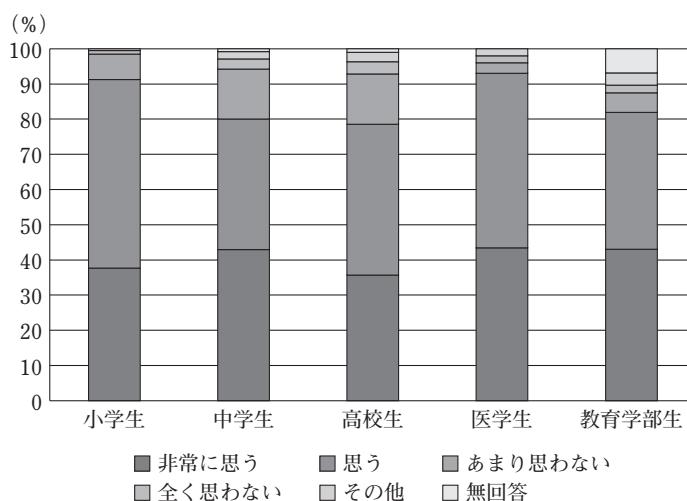


図4 献血への協力

た」。中学1年生「献血の大切さを知り、献血に興味を持ちました。私も献血して、人の役に立ちたいと思います」。高校1年生「高校生でも誰かの役に立つことを知り、ぜひ献血に協力したいと思いました。また血液不足を知らない人が多いため、周りの人に献血を呼びかけたいと思います」。医学部1年生「献血者のそれぞれの想いを理解し、貴重な血液の適正使用に努めたいと思います」、教育学部3年生「誰かが献血するだろうではなく、自らが献血して制度を堅持する必要性を自覚しました」などが代表的な感想であった。

### 考 察

少子高齢社会の急激なる進展による献血可能人口の減少を考慮すると、将来の献血者を確実に確保する方策が必要である。そこで若年層に対する献血の啓発活動が重要視され、さまざまな取り組みが行われている<sup>1), 2)</sup>。その一環として宮城県赤十字血液センターでは小中高大学生における献血啓発セミナー開催に積極的に取り組み、学校側からの要請に応じた内容でセミナーを開催している<sup>3)</sup>。

若年層に対する献血セミナーを行う際の留意事項としては、受講生の年齢や関心事項に合わせて講演内容を変える必要がある。高校生や大学生では聴講意欲を持続させるため、途中で「アンパンマンのエキス」を上映すると、多くの学生が感動し、涙を流す学生も現れた。また小学生とくに低学年では興味がなければ私語、さらには席を離れ走り回る。そこで「将来の夢」として、筆者自身の経験を交えて夢を追い続ける大切さを語ると、大いに関心を示した。また「模擬外科手術」では手術道具に触らせ、実物の胆嚢結石を見せながら行うと、学生らは目を輝かした。さらに故郷をいつまでも愛おしむことを願い唱歌「ふるさと」を、また筆者の母校である小・中学校では校歌を齊唱した。受講者の興味に応じて講演内容を変えると、最後まで集中して聞いてくれた。

講演者としては、単に献血について講話するだ

けではなく、医師や看護師も積極的に参加して実体験に基づいた医療内容も紹介すると、学生は大いなる関心を示した<sup>4)</sup>。また献血啓発ばかりではなく、中高生では薬物、たばこ、アルコール、ネットなどの問題も取り上げると、講演内容がさらに充実した。なお学校との交渉においては、同窓生や父兄、さらには退職校長など教育界に広い交友関係を有する人材が関与すると容易であった。

講演後のアンケート調査では、多くの学生が献血に関心を持ち、また献血に協力したいと答えた。実際、後日に献血ルームに友人を連れて献血に来た高校生や大学生、また親子で献血バスを訪れ、母親が献血する様子を興味深く観察した小学生もいた。さらに医学生においては後日の体験学習として献血ルームを訪れ、路上における献血の呼びかけ、さらには献血にも協力してくれた。なお高学年になるに従い「献血セミナーの理解」や「献血への協力」が低下傾向にあった理由としては、精神的成长に伴う自我の目覚めも一因と推察された。また宮城県における高校献血では親の同意書を必須としているため、献血者の増加は限定的であり、献血ルームでの献血も推奨した。

講演直後に感想文を書くことは、献血について改めて考える機会となり、理解が深まると思う。事実、感想文には献血に対して好意的な意見が多く寄せられ、献血を身近な社会貢献として認識していることが確認できた<sup>1)</sup>。また将来の夢として看護師や医師などの医療職を挙げる学生も複数あり、動機付けにも有用であると思う。さらに医師を目指す医学生には、献血という貴重な実体験の下に、適正な血液使用に努める契機になったと思う。

### おわりに

将来を担う小中高大学生に対する献血啓発セミナーは有用であり、安全な血液の安定供給を責務とする血液センターとしては献血啓発セミナー開催に積極的に取り組む必要がある。

---

## 文 献

- 1) 吉田文洋, ほか: 初回献血者へのアンケート調査による献血推進のための広報活動の有効性の評価. 日本血液事業39: 43-47, 2016.
- 2) 松坂俊光: 少子高齢化に伴う献血血液の相対的不足に対する方策について. 日本輸血細胞治療学会誌59: 826-831, 2013.
- 3) 中川国利: 若年層に対する献血推進. 宮城県医師会報837: 833-834, 2015.
- 4) 溝口秀昭, ほか: 血液センターによる小・中・高等学校向け出前講座の高校生の献血に与える影響(第一報). 血液事業38: 667-674, 2015.